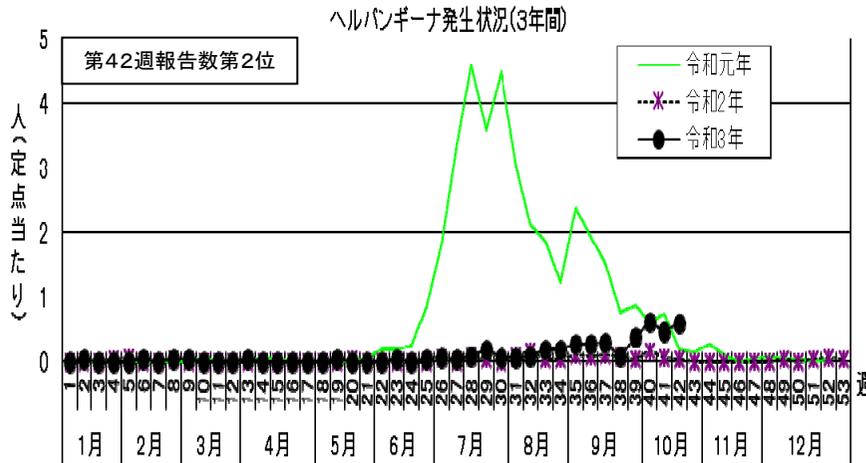
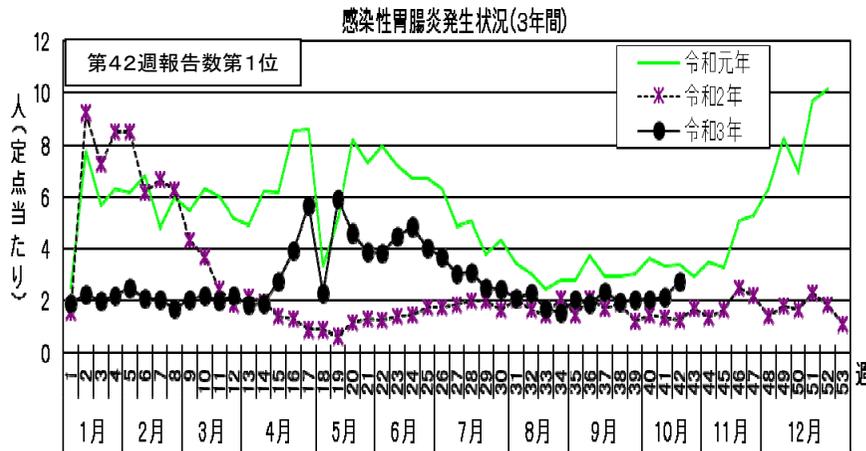


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年10月18日（月）～令和3年10月24日（日）〔令和3年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.73人と前週（2.14人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.59人と前週（0.46人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.49人と前週（0.32人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.49人と前週（0.46人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



風しん抗体検査～妊娠するまえに、感染するまえに～

風しんは、風しんウイルスを原因とし、発熱、発疹、リンパ節腫脹を三主徴とする感染症です。成人が発症した場合、小児より重症化することがあり、まれに急性脳炎、血小板減少性紫斑病等の合併症を引き起こすこともあります。また、妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、先天性心疾患、難聴、白内障などの障がいを持つ、先天性風しん症候群（CRS）の児が生まれる可能性が高くなり、大きな問題となっています。

川崎市では、風しんを予防しCRSの発生を防止するため、無料の風しん抗体検査の実施と、抗体価が十分でない方へのワクチン接種費用の一部助成を実施しています。風しんはワクチンを接種することで、95%以上の人が免疫を獲得できるといわれています。妊婦への感染を防ぎ、未来の子ども達を守るためにも、風しんにかからないようにしましょう。

令和3年度川崎市風しん対策事業

対象者：本市の事業を利用したことがない川崎市民で、次のいずれかに当てはまる方

- 妊娠を希望する女性
- 妊娠を希望する女性のパートナー
- 妊婦のパートナー
- 昭和34年4月2日～平成元年4月1日の間に生まれた男性

実施期間：令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

実施場所：市内の協力医療機関 約440か所

Step 1 風しん抗体検査（無料）

Step 2 麻しん風しん混合ワクチン接種（3,200円）

*抗体価が十分でなかった方は、是非ワクチン接種を検討しましょう。

昭和37年4月2日～昭和54年4月1日の間に生まれた男性は、厚生労働省の追加的対策の対象者となり、免疫を保有していない方は接種費用も無料となります。クーポン券を利用して、抗体検査及びワクチン接種（第5期定期接種）を受けましょう。

※詳しくは令和3年度川崎市風しん対策事業ホームページをご覧ください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250

令和3年10月26日作成